

新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 28年7月



基本理念

県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します。

基本方針

1. 常に診療情報を開示して、患者さんとの信頼関係をもっと大切にします。
2. がん診療連携拠点病院として、すべての医療機関と連携を密にします。
3. がんの研究を行うとともに、患者さんのための医療人の育成に努めます。
4. 病院運営の適正化と効率化に努めます



contents

消化器外科のご紹介
がん患者さんのための
ハローワークによる就労支援
緩和ケア科と
緊急緩和ケア病床のご案内
がん看護外来のご案内
がん治療のトピックス 皮膚科
第20回「がん」についての
市民公開講座開催のご案内

消化器外科のご紹介

臨床部長 中川 悟



日頃より消化器がん診療の地域連携に際して多大なご支援を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。がん治療における手術および薬物療法は急速に発展し、高度な臨床力が要求されてきております。当科では最新の知見を取り入れ、患者さまに最善の医療を提供することを常に心がけております。

当科は、4つのチーム（食道・胃、胃、大腸、肝胆膵）にて診療しております。患者さまのご紹介は地域連携室へご連絡頂ければ、その専門外来にご予約させていただきます。精査の後に検討会を経て治療方針が決定され、詳細な説明の後に治療

を開始いたします。

近年、患者さまへの負担が少ない手術として鏡視下手術（胸腔鏡、腹腔鏡）が広く普及して参りました。当科でも鏡視下手術を積極的に施行しており、2015年において食道がん25例、早期胃がん26例、結腸がん69例、直腸がん65例に施行いたしました（2015年総手術数838件）。外科手術用機器も発展してきており、現在は3D内視鏡システムを導入しております（図1）。術者、助手及び手術スタッフは3D用のメガネを装着して手術を行います。3D観察を行うことにより、対象臓器の立体的な観察が可能となり、従来の平面的な2D映像では困難であった“奥行き”感の把握が容易となり、より迅速で正確な内視鏡下外科手術が実現できるようになりました。

また、周術期管理の進歩及び薬物療法の発展により、術前術後に抗がん剤を用いることが多くなってきております。診断時に切除不能と判断された患者さまでも抗がん剤を用いることで、切除が可能となる場合もあります。抗がん剤を用いた後の手術は高度な技術が要求されますが、最後まで諦めることなく安全に施行しております。

がん治療においては尚一層の発展が期待されておりますので、時代に遅れることなく地域の皆さまのお役に立てるよう、スタッフ一同努力していく所存です。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

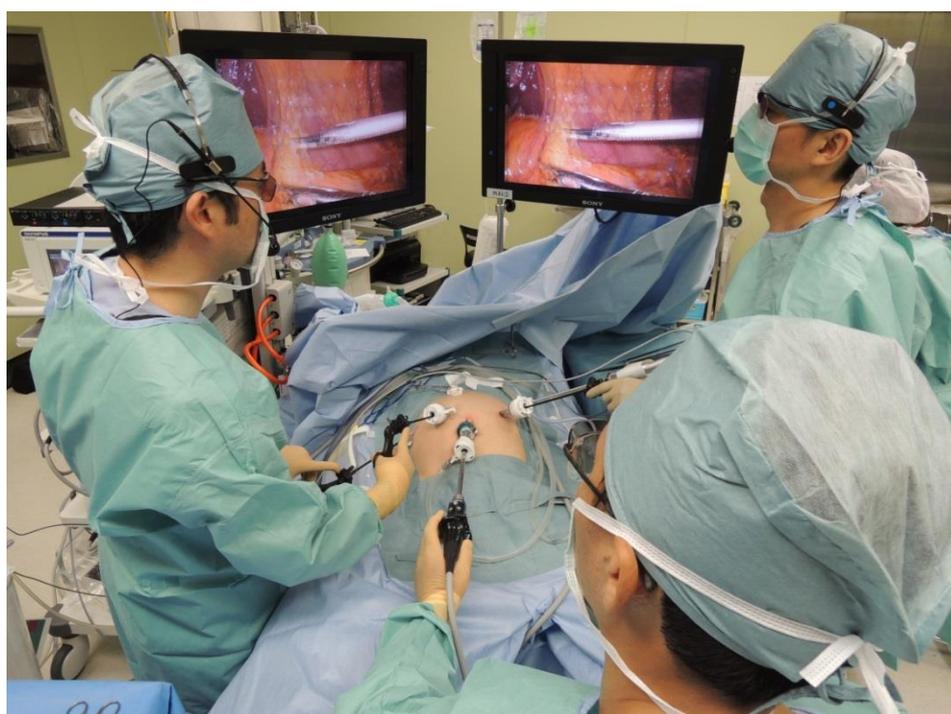


図1：3D内視鏡システム

～がんの治療を受けながら働きたい方へ～
**がん患者さんのためのハローワークによる
就労支援を始めました**

今年度よりハローワーク新潟では、県立がんセンター新潟病院および新潟市民病院と連携して、長期療養患者を対象とした就労についての出張相談を開始しました。がんと診断されて治療が始まる前までに41%、治療開始後に48%の患者が離職をしているというデータが出ています。がんと診断されたショックや会社に迷惑をかけたくないとの思いから、会社を辞めてしまう人もいます。

一度退職をしてしまうと、再就職するためのハードルは高くなります。再就職活動が長引くことで生活の困窮に陥るリスクが高くなります。まずは、早期に仕事を辞めない、辞めさせない支援が必要です。支援の一つとして、出張相談では就職ナビゲーターがマンツーマンで、①症状、通院状況に配慮した求人を探す、②仕事復帰の不安解消のための相談、③応募書類の作成や面接の受け方についてのアドバイス、④職業訓練や就職支援セミナーなどの紹介を行っています。その他、会社に提出する診断書の書き方についても相談をお受けします。

一方、企業も採用に当たり不安を抱えている状況です。がん患者を採用し、どのように配置をしたらよいかかわからない企業も多くあります。がん患者に対しての正しい知識が不足していることが要因と考えられます。そのため、企業に対しての啓発や支援を進めていくことが重要です。

今後、がん患者の求職者支援と並行して、雇用者側の採用しやすい環境の構築が求められています。
(地域連携・相談支援センター)



- 通院の必要があるが、働きたい
- 自分の病状に合った仕事を見つけたい
- 治療と仕事の両立について教えてほしい
- 仕事復帰への不安がある
- 就職活動の時、企業に病気のことを伝えるべきか？
- 仕事復帰に際して、どんなスキルが必要か？

お仕事を探されている方はぜひご利用ください。

相談を希望の方は電話で予約をお願いします。

当日の相談も受け付けています。

入院中の方は担当看護師にお申し出ください。



相談日：毎週木曜日

時間：9時30分～15時30分

場所：新潟県立がんセンター新潟病院
レインボープラザ（本院1階）

電話：025-266-5161



緩和ケア科と緊急緩和ケア病床のご案内

緩和ケア科 部長 本間 英之



皆様こんにちは。新潟県立がんセンター新潟病院緩和ケア科 本間英之です。今日は当科の診療を大きく二つに分けてお話しします。

一つ目は、治療科(手術・抗がん剤・放射線治療など抗がん治療を積極的に行う診療科のことです)の診療中に、痛みや呼吸困難、不安や抑うつなど様々な苦痛で治療継続が難しくなった時に、患者さんと御家族・治療科の医師・看護師と協力し、症状を和らげて抗がん治療が継続出来ないかチャレンジすることです。皆様には意外かもしれませんが、現在の業務のうちおよそ半分はこういった内容です。

二つ目は、積極的な治療を中止・終了した患者様の、苦痛の緩和と生命や機能予後の改善を目的とした治療です。あるいはこちらの方がイメージしやすいかもしれませんが、どうしても急性期病院としての制限があり、当院のみで完結できず、近隣の医療機関やホスピス・緩和ケア病棟にも度々ご協力をお願いしています。この場をお借りして御礼申し上げます。

そして一つ目、二つ目いずれも、近年では「在宅抗がん治療」「在宅緩和ケア」が重要になりました。安心して在宅で抗がん治療をしていただくために、従前より治療中の患者様の入院受け入れを積極的に行っておりましたが、これに加えて在宅緩和ケアを受けていらっしゃる患者様の受け入れを目的に2病床を整備いたしました。わずか2床ですが、将来大きく羽ばたけるように、スタッフ一同鋭意努力中です。詳細はどうぞ、レインボープラザにお問い合わせ下さい。お待ちしております。

がん看護外来のご案内

緩和ケアセンター 青海 直子

専門的な緩和ケアを提供することを目的に6月より「がん看護外来」を始めました。専門・認定看護師・指定研修修了看護師が専門的な知識や技術を生かし、症状緩和、意思決定支援、精神面等のケアを行います。また患者さん・ご家族が安心してよりよい生活が送れるように他部門のスタッフと連携し支援を行います。対象患者は、原則として当院に通院あるいは入院している患者さんで、がん、非がんは問いません。予約制になっています。



がん看護は、11 領域に渡り業務内容は以下ようになります。

乳がん看護	乳がん患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状態を総合的に対応、患者の意思決定支援
がん化学療法看護	外来化学療法を受ける患者が、安全安楽に治療を受けることができるように援助
痛みの看護	がん性疼痛を有する患者や家族が、生活の質を高めることのできる効果的な方法を、患者と家族と共に計画し援助
がんのよろず相談	分野を区別することができない内容に対応
移植看護	移植後のフォローアップを長期的に支援
リンパ浮腫ケア	リンパ浮腫発症患者に適切なケアを提供、リンパドレナージ「ひまわり」を紹介を行う橋渡し
緩和ケア	緩和ケアを受ける患者とその家族の QOL を向上できるように支援
がん放射線療法看護	がん放射線療法を受ける患者が安全安楽に治療を完遂できるように援助、照射中の患者へのセルフケア支援、家族支援を実施
皮膚ケア	皮膚・排泄ケアの必要がある患者に適切なケアを提供
ストーマケア	ストーマ造設患者に持続的に関わり、身体的・精神的・社会的問題に適応できるように支援
手術看護	周手術期患者（術前・術中・術後）に継続的な看護を提供

各分野の担当者が月 1～2 回外来を担当し、面談を行い支援させていただきます。

予約は、通院している科の外来看護師もしくは入院している病棟の看護師に面談希望をお伝えください。日程を相談のうえ予約を入れさせていただきます。月間予定についてはホームページをご覧ください。

がん看護外来のご案内

療養中の生活について・治療や副作用のことなど、不安やお悩みはありませんか。

がん看護外来は、専門的な知識や技術を持った専門・認定看護師が担当し、患者さん・ご家族のお話・お悩みをお伺いしながら、より快適で安心した日常生活が送れるように支援いたします。

● 11 の専門分野があります ● 《完全予約制》

がん看護外来の分野

- ストーマケア
- 皮膚ケア
- がん放射線療法看護
- 緩和ケア
- リンパ浮腫ケア
- 乳がん看護
- がん化学療法看護
- 痛みの看護
- がんのよろず相談
- 移植看護

【対象】 現在 当院に通院および入院中の患者さん
 【外来時間】 月～金 9:00～17:15(日曜については、看護部にお尋ねください)
 【場所】 2階 がん看護外来 (詳細は予約の際にご案内します。)
 【診療費用】 専門分野により異なるため、看護部にお尋ねください
 【予約方法】 通院している科の外来看護師もしくは入院している病棟の看護師に面談希望をお伝えください、日程をご相談のうえ、予約を入れます。

どの分野に相談したらいいかわからない、もっと詳しい内容を聞きたい等ございましたら、お近くの看護部までお気軽にお声掛けください。

新潟県立がんセンター新潟病院

2016年7月		がん看護外来 月間予定表			
<small>※病院ホームページのスケジュールから一部変更しております。</small>					
月	火	水	木	金	
27	28	29	30	1	
4	5	6	7	8	がんのよろず相談 乳がん看護
	緩和ケア	リンパ浮腫ケア	がん放射線療法看護	ストーマケア	(注1) (注2)
11	12	13	14	15	がん化学療法看護
	皮膚ケア	乳がん看護		痛みの看護	
18	19	20	21	22	休みの看護
		がん化学療法看護		がんのよろず相談	
25	26	27	28	29	乳がん看護
	休みの看護	痛みの看護	移植看護		

2月4日に修正済み

*手術看護：随時対応可能（予約は2日前までに）
 *ストーマケアは、皮膚・排泄ケアCNと指定研修修了看護師（東5病棟）が対応します
 注1) 場所は外科外来になります。
 注2) 受診当日は「入院中外来受診連絡票」が必要になります。
 *移植看護外来については、がん看護CNSと指定研修修了看護師（東7病棟）が対応します

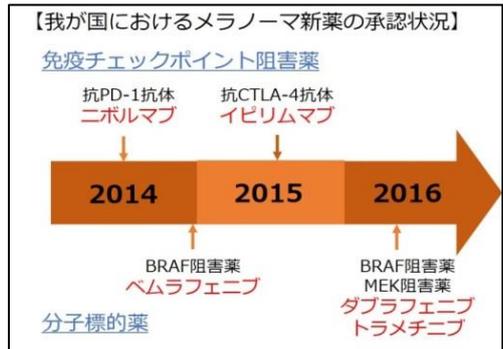




進行期メラノーマの新規薬剤

皮膚科 竹之内 辰也

メラノーマ（悪性黒色腫）は、数あるがんの中でも“抗がん剤が効かない”がんの代表格として悪役扱いされてきました。しかし、進行期メラノーマに対する薬物療法は最近の5-6年で目覚ましい進歩を遂げています。それらは免疫チェックポイント阻害薬と分子標的薬に大別され、我が国においても2014年に抗PD-1抗体ニボルマブが世界に先駆けて承認されたのを皮切りに、複数の有望な薬剤が実臨床で使用できるようになっています。その結果、かつては10%程度であった進行期メラノーマの5年生存率は、薬剤の使い分けによって大幅に改善することが予想されています。特に、非常に予後が不良であった粘膜原発のメラノーマに対しても、免疫チェックポイント阻害薬は高い有効性が示されています。当院の皮膚科は、これら新薬における国内開発治験の多くに携わっています。今後とも症例のご紹介をよろしくお願い申し上げます。



第20回「がん」についての市民公開講座 開催のお知らせ

テーマは「最近のがん診療の進歩と新潟がんセンター」

県立がんセンター新潟病院の市民公開講座は、市民への正しいがんの知識の普及と、当院の紹介を目的として平成9年より始め、今年で20回目を迎えます。

日時：平成28年9月10日（土） 午後1時00分～4時30分

場所：だいしホール（新潟市中央区東堀前通7番町）

講演

第一部 「がん診療の新展開」

内科 臨床部長 田中 洋史 「肺がん」

消化器外科部長 藪崎 裕 「胃がん」

内科部長 塩路 和彦 「腓腫瘍の新たな診断ツール」

病理部長 川崎 隆 「がん診療に直結する病理診断」

第二部 「都道府県がん診療連携拠点病院としての当院の役割」

副院長 丸山 洋一 「地域連携・相談支援センターについて」

緩和ケア科部長 本間 英之 「緩和ケアセンターについて」



新潟県立がんセンター新潟病院

地域連携・相談支援センターレインボープラザ（地域連携部門）

〒951-8566 新潟県新潟市中央区川岸町2-15-3

TEL：025-234-0011 FAX：025-234-0022

URL：http://www.niigata-cc.jp